

科目名 (英)	臨床鍼灸学 I Diagnostics of Acupuncture and Moxbustion I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限
後期						

【授業の学習内容】

鍼灸臨床における診察は、東洋医学の「四診」に代表されるよう、直接患者さんを「視る」、「触る」、患者さんから「聞く」ことにより情報を得る。これによって得られた情報を、学んだ知識と照らし合わせ、病態把握(病苦の原因の推察)を行い、必要な治療計画を立てるのが「臨床」である。これを可能にするのが、診察の技術と知識を活用する力である。

臨床鍼灸学はⅠとⅡで構成されている。このうち、Ⅰでは臨床の入口であり、「患者とのコミュニケーション構築」に最も重要な働きを担う医療面接について、その目的、重要性、基本的な医療面接の流れと話を聴くための技術について学習する。また、聴取した情報や検査で得られた所見の記録として、カルテの記載方法についても学習する。

【到達目標】

基礎医学系、臨床医学系で学習した内容を整理し、診察場面(問診から各種徒手による検査)において活用する力を身につけるとともに、医療従事者として患者さんと関わる上での身構え、心構えを身につける。

<具体的な目標>

目標①医療面接の目的を理解し、共感と思いやりの心をもって必須項目の聴取ができる。

目標②インフォームドコンセントの意味を理解し、患者にとって分かりやすい説明ができる。

目標③カルテの重要性と各項目の意味を理解し、正確なカルテ記載ができる。

授業計画・内容

1回目	講義概要説明、患者とは、医療面接とは (演習1)医療面接で何を聞けばよいか考える。
2回目	病態把握をするとは、良好な患者-治療者関係を築くとは (演習2)医療面接の目的達成の為に必要なことを考える。
3回目	患者を迎える前の準備～迎え入れ、インフォームドコンセント (演習3)医療面接の導入(セッティングと誘導、IC)を実践する。
4回目	医療面接における基本的聴取事項 (演習4)模擬症例の確認:病態把握における重要度を考える。
5回目	(演習5)医療面接ロールプレイ&ディスカッション(P178症例1)を行う。
6回目	場面に応じたポイントと質問法、医療面接とコミュニケーション (演習6)開かれた質問と閉ざされた質問、面接に必要な態度と技法を実践する。
7回目	病態把握に必要な思考、患者への説明 (演習7)病態の説明を考え、実践する。
8回目	(演習8)医療面接ロールプレイ&ディスカッション(P178症例1) (演習9)模擬症例作成を行う。
9回目	【小テスト①】医療面接の目的と聴取項目 カルテの意義と各項目の意味① (演習10)主訴、現病歴の書き方を実践する。
10回目	カルテの意義と各項目の意味②、検査法の記録 (演習11)検査結果の書き方を実践する。(演習9)模擬症例作成を行う。
11回目	カルテに用いられる略語、効果判定の尺度 (演習12)治療内容の書き方を実践する。(演習9)模擬症例作成を行う。
12回目	(演習13)模擬症例を用いてロールプレイ&ディスカッション&カルテ記載①を行う。
13回目	(演習14)模擬症例を用いてロールプレイ&ディスカッション&カルテ記載②を行う。
14回目	(演習15)模擬症例を用いてロールプレイ&ディスカッション&カルテ記載③を行う。
15回目	【小テスト②】カルテの意義と書き方 再診時の医療面接について解説を行う。

準備学習 時間外学習	いずれの目標についても、必要な「知識」の習得と実践を通じての「慣れ」が必要です。実践については、授業内でも行いますが、回数に限りがあります。各授業終了後の「知識」の復習とあわせ、学生同士でのロールプレイを繰り返し行うようにしましょう。
---------------	---

評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
------	---

受講生への メッセージ	この授業ではロールプレイを多用します。本来は「患者さん」を相手に行うことを、学生同士でトレーニングすることになります。ここで重要なのは、患者役がいかに患者になりきるかです。それを通じて「患者の立場」を学ぶことができますし、鍼灸師役の学生も本当の患者さんのつもりで対応することで、自分が「患者からどう見られているか」を知ることができます。そういう意識をもって、ロールプレイを行ってください。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:滋慶認定実技審査対応 ずっと使える!鍼灸臨床BOOK 滋慶出版

参考書: